

デジタル地球儀に映し出されたさまざまな「地球の姿」を食い入るように見る子どもたち  
＝山形市・県産業科学館（霞城セントラル内）



## 「宇宙の目」で地球観察

山形市の県産業科学館に9日、東北、北海道で初導入となるデジタル地球儀「触（さわ）れる地球」が設置された。地表画像をはじめ、気象、環境など刻々と変わる地球規模の動きが半球体のディスプレイに投影され、宇宙飛行士の目線で観察できる。開発者の竹村真一京都造形芸術大教授が同日、子どもたちを前にデモンストレーション講演を行った。

住宅建築のシェルター（山形市、木村一義社長）が創業40周年を記念し県に寄付した。高さ133センチでディスプレイは直径約80センチ。高性能プロ

デジタル地球儀設置  
県産業科学館

ジェクターと特殊広角レンズ、画像補正ソフトを組み合わせ、地球を再現する。

気象、大気などに関する情報は宇宙航空研究開発機構（JAXA）をはじめ、国内外の第一線の研究機関から提供される。地震・津波の様子を含め100を超える分野で地球の動きを視覚化することが可能。温暖化による気候変動のシミュレーション、過去の大地震の際に津波がどう広がったかなども一目で分かる。

講演で竹村教授はデジタル地球儀を使って地震、台風発生仕組みなどを紹介し「21世紀の子どもたちには地球とのつながりを感じてほしい」と語った。